

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2025年2月20日第51号(通巻57号)
 オリーブの会
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453
 tel/fax:072-737-9454
 mail: oribunokai@gmail.com
 facebook:oribunokai
 blog: olivenokai.hatenablog.com



停戦は継続するか?

トランプの大統領就任式の前日にガザの停戦が発効した。6週間の停戦で、33人の捕虜の解放と、パレスチナ人の捕虜の解放を行うことになり、2月22日に七回目のイスラエル人捕虜の解放が行われたが、イスラエルは、突然、パレスチナ人捕虜の解放を延期すると発表した。3月1日で、停戦の第一段階は終わり、果たして第二段階に進むのか、それともイスラエルが攻撃を再開するのか。パレスチナ側は、それに対してどのように対応していくのか

トランプは世界を混乱に

1月20日の就任以来、世界に驚きと混乱を次々ともたらしてきたトランプ米大統領は、パレスチナ問題でも、ガザ住民をエジプト、ヨルダンに追い出して、米国がガザを所有し、「地中海のリビエラ」に変えると宣言した。この発言に、大統領執務室でインタビューをしていた記者たちも驚きを隠すことができなかった。なんの権限でそのようなことができるかという記者の質問に、米国の権限だと答えた。パレスチナの歴史を知らないのか、ガザのパレスチナ人の多くが、1948年のナクバで自ら土地から追い出され、難民となった人々であり、再びパレ

スチナの土地から追い出されることを認めることはないし、近隣のアラブ諸国もそれを認めることはないのは明確である。

その根拠は、イスラエルの極右の狂信者たちが、ガザからパレスチナ人を追い出して、再びイスラエルの直接支配するという民族浄化を肯定するものでしかない。また、第三段階の捕虜の引き渡しをイスラエルの停戦違反に、抗議して、遅らせると発表したあとも、トランプは引き渡しの日には捕虜全員を引き渡さなければ、地獄の門を開けると脅したが、すでに地獄の中に置かれているガザの住民には脅しにならず、結局は、ネタニヤフに好きなようにすればいい、結局は、予定通りの捕虜交換が行われた。

またガザを所有するという発言も、エジプト、ヨルダンなどアラブ諸国が拒否をすると、押し付けるものではないと言い出した。アラブ諸国は、ガザの住民を追い出さずに再建する計画を立てている。

トランプがガザを所有する

ガザを所有し、住民を追い出すという計画は、ネタニヤフ内閣のスモトリッチ財務省や、ベングビール元国家安全保障相などの極右閣僚などが、ガザから住民をエジ

プトに追い出し、ガザをイスラエルの直接支配下に置くという民族浄化計画と同じものである。この考えは、極右だけでなく、右翼シオニストであるネタニヤフらのリクードにも、根底にある考えである。そして、ガザだけでなく、西岸の併合も進めている。

イスラエル占領軍は、ガザで停戦となったとたんに、西岸北部のジェニン、トルカラムなどへの攻撃を強め、これまでのような治安弾圧的なものではなく、ガザへの攻撃と同じ質で行われ、住民の追い出しが行われ、町を瓦礫の山に変えている。入植者たちもパレスチナ住民の追い出しのための嫌がらせを行っている。その口実は、ガザと同じ抵抗勢力の一掃である。

第一段階の停戦と捕虜交換の状況は、第七回の交換で、イスラエルは、パレスチナが停戦違反をしているとして、603人のパレスチナ捕虜の釈放を延期するという暴挙に出た。理由は、捕虜釈放時のハマス側の式典が捕虜を侮辱するものだとし、交換を延期するとした。式典では、捕虜たちは尊厳をもって扱われ、イスラエルがパレスチナ捕虜に対して行っている虐待と対照的である。7回に至るまで、毎回ハマスは式典を行ってきたにも関わらず、今頃になって持ち出すということは、第二段階に進ませないと意図があるのかもしれない。

なぜなら、第一段階で最後に残っているのは、4人の遺体の引き渡しであり、それでハマス側は合意していた33人を解放したことになる。また、第七回で6人の釈放された捕虜のうち、エチオピア出身のユダヤ人とベドウィンの兵士が含まれていた、これまで、捕虜交換ではイスラエル側は交換を拒否したものである。すで10年近くをガザで過ごしていた。イスラエルの人種主義の犠牲者である。イスラエルは、第二段階でイスラエル軍の全面的なガザからの撤退を行うこと望んでおらず、また、パレスチナ人のさらなる釈放も望んでいない。残りのイスラエル捕虜の命を見捨てる可能性がある。

イスラエルは、ハマスの停戦違反というが、イスラエルは合意されている重機の搬入やテント移動式の住宅などの全面的な搬入を認めて居ず、国境のエジプト側に長いトラックの列ができています。また、ガザ住民の殺害などが停戦以降も行われている。彼らは、自らの停戦合意違反は違反とは考えていないようだ。イスラエルにとっては、ガザの住民の生活が改善されることを望んでいないからである。そして、住民の「自発的」退去を促すことにある。

第二段階の交渉

第二段階では、捕虜の全員の解放とイスラエル軍のガザからの完全撤退が含まれている。ハマス側は、捕虜の

一括解放をすると表明している。しかし、イスラエル側は、今回のパレスチナ捕虜の釈放の延期に示されているように、第二段階に入ることを望んでいない。特に、スモトリッチなどの極右閣僚は、反対している。

西岸のガザ化の進行

すでに述べたように、ガザの停戦が始まって以来、イスラエル占領軍は西岸での攻撃を強め、多くの市民を殺害し、逮捕し、住民の追い出しをしてきた。すでに4万人が追い出され、イスラエルは、住民が戻れないように戦車を展開している。これは、ガザで Netanyahu 軸でガザの北部を切り離し、破壊の限りを行ったやり方を西岸でも繰り返そうとしている。

自治政府のおかしな動き

自治政府は、前号でも明らかにしたように、シリアのアサド政権が倒されたとたんに、ジェニンの抵抗勢力への攻撃を開始したが、そのあとイスラエルが本格的な攻撃を行い、自治政府が抵抗勢力を抑える役割をイスラエルが信用していないことが明らかになった。

さらに、2月11日自治政府のアッバース大統領は、これまでパレスチナが行ってきた獄中者や殉教者の家族への補償をやめると発表し、パレスチナ内部で大きな反発を生んでいる。イスラエル、米国はテロリストへの資金援助であるとして批判され、資金の引き渡しを拒否してきたものであった。この動きは、明確にイスラエル、米国にとりいるために行われている。トランプ政権はこのアッバースの大統領令を歓迎した。

ハマスは、ガザの統治に関して自治政府がかかわることを認めるとしているが、イスラエルは、自治政府がかかわることを認めて居ない。このおかしな動きは、イスラエル、米国に取り入ることを意図しているとおもわれても仕方がない。

イスラエル、米国がパレスチナで民族浄化を進めている中で、パレスチナの民族的な団結が求められている。ハマスなどの抵抗勢力は、統一をもとめて何度も、交渉を行ってきたが、自治政府、ファタハは、イスラエル、米国の顔色を窺って、統一の方向に水を差してきたが、イスラエル、米国は、自治政府を信用しておらず、ガザでハマスにとって代わることを認めていない。ハマスは、自治政府のガザの支配を認めており、また、アラブ諸国も自治政府がガザの支配することを望んでいる。イスラエル、米国の言いなりではなく、アラブ、パレスチナの統一した力で、イスラエルの民族浄化に対決していく必要がある。



米国のドナルド・トランプ前大統領は、イスラエルは戦争を「終わらせる」必要があると述べた。(画像：パレスチナ・クロニクル)

2025年2月8日 記事、論評

キャシー・ケリー

トランプ大統領の最近の発言は、国連人権理事会からの米国の脱退と相まって、国連総会が緊急会議を開催する必要性を浮き彫りにしている。

2025年2月4日、ワシントンD.C.での記者会見で、トランプ大統領はイスラエルのネタニヤフ首相と並んで、ガザ地区を驚異的なもの、つまり中東のリビエラに変えるという米国の意図を発表した。

彼は用意されたメモを読み上げ、「米国はガザ地区を占領する」と述べた。彼はガザのパレスチナ人は他の国に移住させられるだろうと述べ、その後、なぜ彼らが戻りたがるのか疑問を呈した。彼はさらに、イスラエルによるヨルダン川西岸の併合については来月中旬に決定すると述べた。

国際法によれば、人々を強制的に土地から移送することは人道に対する罪である。併合は、国際法の基本原則である人々の自己決定権を侵害する。

世界中の国家や社会は、トランプ大統領の国際法に対する完全な無視を厳しく非難した。しかし、国連総会のすべての加盟国は、現在、国際法の下で、イスラエル軍が占領下のパレスチナ地域の違法占領を継続することを可能にするいかなる行動も控える義務がある。

これは、すべての国がイスラエルへの武器の輸送を停止しなければならないことを意味する。例えば、米国は、トランプ大統領がイスラエルに送る準備をしていた10億ドル相当の爆弾、ライフル、弾薬、キャタピラーのブルドーザーを送らないようにする必要がある。

過去には、権力の座にある民主党がバイデン大統領にイスラエルへの大量の武器販売を許可し、過去15か月間に大量殺戮を可能にし、ガザを荒廃させた。2025年6月、バイデンはイスラエルへの180億ドルの武器販売を進めた。

インドのエッセイストで小説家のパンカジ・ミシュラは、国際的な武器売買の暗い現実を悲しく描写している。「大量殺戮を支援し、可能にするだけでなく、そこから金儲けをする国家や社会には、何か病的で腐敗したものがあ」とミシュラは書いている。

世界中で、草の根グループは国際法を守り、占領下のパレスチナ地域でのイスラエルによるパレスチナ人の大量虐殺と破壊を支持する政府に抵抗しようと奮闘している。

アイルランドでは、全国の活動家が毎週デモを行い、イスラエル軍への武器や装備の輸送にシャノン空港の使用を認めてはならないと主張している。

2025年2月9日にシャノン空港で予定されている行動を告知するチラシには、「過去15か月間に17,000人以上の子どもを含む47,000人以上のパレスチナ人を殺害し、100,000人以上が負傷した大量虐殺のアパルトヘイト国家イスラエルに武器、技術、兵站支援を届けるためにアイルランドの空域が利用されたこと」に対する抗議が呼びかけられている。

ヨルダン川西岸では800人以上が殺害され、イスラエルの残忍な違法占領が続いている。

欧州の人権活動家は、欧州連合がイスラエルの最大の貿易相手国であり、2022年の物品貿易の28.8%を占めていることを強調している。イスラエルは地中海地域にお

るEUの主要貿易相手国でもある。

現在、160を超える人権団体、労働組合、市民社会団体の連合が、東エルサレムを含むパレスチナ占領地におけるイスラエルの違法入植地との貿易および事業のすべてを禁止するために、欧州委員会に即時措置を取るよう求めている。連合の要求は、2024年7月に国際司法裁判所(ICJ)が出した画期的な勧告的意見を受けてのもので、同意見では次のことが再確認されている。

「イスラエルの占領が終了するまで、第三国は、イスラエルへの武器移転の停止や違法入植地との貿易の停止など、違法な占領の維持に役立つあらゆる形態の援助や支援を直ちに停止しなければならない。」

ニューヨーク市の弁護士ロバート・ジェレスキは、コード・ピンクおよび活動家連合と協力して、パレスチナ人を殺害し、土地から追い出したイスラエルを国連から締め出すよう国連加盟国に訴えている。ジェレスキ氏と彼の同僚は、イスラエルによるヨルダン川西岸への新たな攻撃は、実際の停戦ではなく、大量虐殺の戦術の転換を示していると指摘している。

イスラエルによるジェニンへの爆撃は、26,000人のパレスチナ人の強制的な避難につながった。イスラエル軍は広範囲にわたる逮捕と移動制限を強化している一方で、

入植地の拡大は前例のないペースで続いており、新しい拠点や住宅の建設が頻繁に承認されている。

トランプ大統領の最近の発言と、撤回された国連人権理事会から米国を追放したラウル氏の発言は、国連総会が緊急会議を開く必要性を強調している。国連総会は、米国が公平な仲裁者ではなく、ガザでの大量虐殺の当事者であるかどうかを判断すべきである。

さらに、国連総会は、イスラエルとパレスチナ占領地に関する問題に関して、安全保障理事会での米国の拒否権を停止するかどうかを決定するべきである。

大量殺戮を可能にし、そこから利益を得る行為には、病的で腐敗した何かがあるというパンカジ・ミシュラ氏の指摘を心に留め、私たちは、国連加盟国が国際法上の義務を果たし、将来の世代のために戦争の惨禍を根絶するという国連創設の使命を果たすよう、決して声高に要求することを誓わなければならない。

- 平和活動家であり作家でもあるキャシー・ケリーは、死の商人戦争犯罪法廷の共同コーディネーターであり、ワールド・ビヨンド・ウォーの理事長です。彼女はこの記事を書き、パレスチナ・クロニクルに寄稿しました。



| MR Online 初出: プログレッシブ・マガジン、2025年2月12日、スティーブン・ズネス著(プログレッシブ・マガジンによるその他の記事)| (2025年2月14日掲載) 2月4日、イスラエルのベンヤミン・ネタニヤフ首相との共同記者会見で、ドナルド・トランプ大統領は、米国が「ガザ地区を占領し」、「その場所を平らにし」、パレスチナ人全員を立ち退かせ、「世界中から人々がそこに」滞在し、彼が思い描いている国際リゾート地を楽しめるようにすると発表した。

多くの観測筋は、トランプ大統領の発言を奇妙で突飛な計画であり、おそらく実行に移さないだろうと一蹴しているが、ネタニヤフ首相の訪問に先立ってまとめられた提案のメモを読み上げると、この発表は少なくともあ

る程度の計画の結果であるように思われた。

これはワシントンから出された最も過激な反パレスチナ政策の一つかもしれないが、これはイスラエルによるヨルダン川西岸の占領と植民地化、ゴラン高原のイスラエルによる違法な併合の承認、エルサレムをイスラエルの唯一の首都と認めること、そしてイスラエルによる数十年にわたるガザ地区の包囲と相次ぐ壊滅的な戦争を支持する、数十年にわたる超党派の米国政策の論理的延長である。実行可能な二国家解決法またはすべての人に権利が保証された二国家国家を通じてパレスチナ人に平等な権利を否定することで、米国は双方の暴力的過激派の台頭を助長し、はるかに強力なイスラエルに一種のアパルトヘイト制度の押し付けをエスカレートさせる

許可を与えた。

トランプは、ガザの大部分が瓦礫と化し、もはや住民を支えられないと指摘し、米国とイスラエルの条件でガザを再建するためにパレスチナ人を追放することを正当化した。彼はパレスチナ人の窮状を「不運」の結果と呼んだが、実際には米国が支援するイスラエル軍が民間インフラを故意に標的にした結果である。国際的な法的コンセンサスが高まりつつあるこの継続的な包囲は、無条件の軍事援助に対する超党派の支持、停戦を求める全会一致の国連安全保障理事会決議に対する米国の5回の拒否権発動、イスラエル政府の行動に対する説明責任を求めた人権団体や国際法機関への攻撃によって可能になった大量虐殺である。

マルコ・ルビオ米国務長官は今週初め、Xで米国は「ガザを再び美しくする」と宣言した。両党の議員は懐疑的だったが、他の議員は支持した。アラバマ州共和党のトミー・タバービル上院議員は、この提案は「良いアイデア」だと述べ、記者に「参加したいですか？」と尋ねた。ペンシルベニア州の民主党上院議員ジョン・フェッターマン氏もこの案に前向きな姿勢を見せ、この案を「挑発的」としつつも「議論の一部」としている。

トランプ氏が支援するエジプトやサウジアラビアなどの独裁政権を含むアラブ諸国は、パレスチナ難民の新たな受け入れを迫られるトランプ氏の計画を全面的に拒否した。ドイツ、ロシア、中国、スペイン、トルコ、ブラジルなどの国々、そして国連のさまざまな機関は、この提案を違法だと非難した。この提案はトランプ氏の義理の息子ジャレッド・クシュナー氏の影響を受けたと報じられている。同氏は昨年、「ガザの海岸沿いの土地は非常に価値がある可能性がある」と公言し、「イスラエルの観点からすれば、(自分は)人々を立ち退かせ、その後、清掃するために最善を尽くす」と述べた。

イスラエル情報省は、ネタニヤフ政権の閣僚らが繰り返しガザのパレスチナ人の追放と同地域の植民地化を訴えていることから、2023年10月にはすでに、ガザからエジプトのシナイ砂漠へパレスチナ人全員を物理的に排除する計画を準備していた。同年秋、バイデン政権はエジプトに対し、パレスチナ人の同地域への脱出を受け入れるよう提案した。国務省は後に、政権の提案は短期的な措置に過ぎないと主張したが、イスラエルが過去にパレスチナ難民の帰還権を歴史的に拒否してきたことを踏まえ、エジプトはイスラエルが難民の帰還を認めるかどうか疑念を抱いていた。

今、そのような計画が実現しつつある。ネタニヤフは、イスラエル軍に対し、ガザからパレスチナ人の強制退去

を組織する計画を準備するよう命じた。ガザへの帰還は、パレスチナ人の帰還を阻止するものではない。トランプ氏が難民の大半を受け入れる可能性があること示唆したヨルダンとエジプトは、パレスチナから追い出されたパレスチナ人を受け入れないことを明確にしているが、米国の支援を受けたイスラエルがパレスチナ人を追放するのを止めることはできない。

トランプ氏の提案の恐ろしさをさらに増しているのは、多くのパレスチナ人家族が何世紀にもわたってガザに住んでいたが、現在の住民の大半は、1947年から1950年の間にパレスチナの他の地域から追い出された難民またはその子孫であるという点だ。パレスチナ人がガザに戻りたいと思ったらどうなるかと尋ねられたトランプ氏は、ガザを新たなリビアに変える計画を説明した後で、次のように述べてその質問を退けた。

なぜ彼らは戻りたいのか。あの場所は地獄だった。

議会やその他の民主党指導部で、国際刑事裁判所の指示に従ってネタニヤフ首相の逮捕を求めたり、招致に反対したりする者がいないことが、トランプ氏とネタニヤフ首相に勇気を与え、ガザ地区の民族浄化を支持すると発表させた可能性が高い。議会民主党議員の大半が、イスラエルが数万人のパレスチナ民間人を虐殺し、さらに200万人の追放を脅かしているにもかかわらず、イスラエルへの無条件軍事援助を支持し続けていることから、この2人の右翼指導者は、自分たちを止めるものはほとんどないと考えているようだ。

唯一の希望は、米国政府が今や公然と記録に残る形でこのようなあからさまな入植者植民地計画を支持していることだ。これは、イスラエルに受け入れを強制するつもりがなかった2国家解決に関する以前の陳腐な言葉とは対照的だ。このことが、イスラエルとパレスチナにおける人権と国際法を支持するより強力な運動の台頭を可能にするかもしれない。民族浄化に専心する政府への無条件の軍事援助を支持することは、人口密集地域へのテロ爆撃を行っている政府にそのような援助を提供し、その後救援物資の供給を制限することよりも、議会議員にとって正当化するのがさらに難しいことが判明するかもしれない。

ここで問題となっているのは、パレスチナ人の権利に対する新たな脅威だけではなく、国際法秩序全体に対する脅威でもある。トランプのガザ植民地化計画により、議会民主党は最終的にどちらの側につくか選択を迫られるかもしれない。

マンズリー・レビューは、MR Online で再公開された



| | MR Online

国防大臣が確認、軍は10月7日にイスラエル人を殺害するよう命令を受けた

2025年2月13日、アサ・ウィンスタンレーがパールズ・アンド・イリテーションズに初掲載（パールズ・アンド・イリテーションズのその他の記事）（2025年2月14日掲載）

イスラエルのいわゆるハンニバル指令を実行する命令は「戦術的に」、ガザ近郊の「さまざまな場所」で出されたと、ヨアブ・ギャラント氏は木曜日、イスラエルのチャンネル12に語った。「他の場所では命令が出されておらず、それが問題だ」と同氏は続けた。

ギャラント氏に質問したジャーナリストのアミット・セガル氏は視聴者に対し、「ハンニバル指令では、イスラエル人人質を乗せた車両がある場合は射殺するよう定められている」と説明した。ギャラント氏はこの説明に異議を唱えなかった。

ギャラント氏は、11月に解任されて以来、イスラエルのテレビ局との最初のインタビューで語った。初めて公に認めた

ハンニバル指令は地域によって不均等に適用されているというギャラント氏の発言とは対照的に、イスラエルの新聞イデオット・アハロトは2024年1月、10月7日正午、イスラエル軍の最高司令部からハンニバル指令を地域全体で発動するよう明確な命令が出されたと報じた。

この命令は「捕虜自身を含む地域の民間人の命を危険にさらしたり、傷つけたりすることになっても」出され

たと、イスラエルのジャーナリスト、ロネン・バーグマン氏とヨアブ・ジトゥン氏は報じた。

イスラエルの新聞ハアレツは7月、同日午前11時22分にイスラエル軍ガザ地区に「車両1台もガザに戻ることはできない」という命令が出されたと報じた。

しかし、ギャラント氏の新たな声明は、10月7日にイスラエル軍が自国民に発砲するよう命令されたことを現代のイスラエル大臣が初めて公に認めたものであり、非常に意義深い。

1980年代にイスラエルの将軍らが秘密裏に初めて発した軍事教義であるハンニバル指令は、イスラエルの国家的な殺人自殺協定である。

当初、この指令は発令されると、イスラエル軍はパレスチナ人や他のアラブの抵抗戦士に捕らえられたばかりのイスラエル軍に発砲できるとしていた。

前例のない

しかし、2023年10月7日、前例のない軍事攻勢で、パレスチナの戦闘員は、1948年にイスラエルに最初に奪われたガザ地区の隣の土地を奪還した。

約250人のイスラエル兵と民間人がハマスと他のパレスチナ武装グループに捕らえられ、彼らはこれをアルアクサ洪水作戦と呼んだ。

イスラエルの対応は、ハンニバル・ドクトリンを再び活性化して解き放ち、兵士だけでなくイスラエルの民間人にも適用することだった。

イスラエルのヘリコプター、ドローン、戦車、さらには地上部隊からの発砲が意図的に行われ、パレスチナの戦闘員がイスラエルの捕虜を生きたまま捕らえ、後にパレスチナの捕虜と交換するのを阻止しようとしたが、失

敗した。

約1100人のイスラエル人が殺害された。このうちイスラエル人によって殺害された人数とパレスチナ人によって殺害された人数は、まだ正確には不明である。1年後、エレクトロニック・インティファダの調査で、少なくとも「数百人」がイスラエルによって殺害されたことが判明した。

先月初めて公表された公式の数字によると、イスラエル空軍は10月7日の「戦闘中に」1万1000発の砲弾を発射し、500発以上の1トン爆弾を投下し、180発のミサ

イルを発射した。

昨年、国連の独立調査は、イスラエル当局がイスラエルへの入国を禁じたことを批判した。

「イスラエル当局は委員会の調査に協力しなかっただけでなく、医療専門家やその他の関係者がイスラエルと接触することを禁じたと報じられている」と調査報告書は述べている。

デイビッド・シーンによる翻訳。



パレスチナ人家族は占領下のヨルダン川西岸で自宅から追い出されている。(写真：QNN)

2025年2月11日 記事、特集

執筆者：Fayha Shalash - ラマラ

イスラエル軍によるヨルダン川西岸の難民キャンプへの継続的な侵攻により、数千人が避難し、厳しい冬の中、悲惨な状況に置かれている。

アデル・サリムは、イスラエルの侵攻の初期に、ジェニン難民キャンプの自宅から8人家族とともに強制的に避難させられたが、侵攻は今や20日以上続いている。

パレスチナの公式筋によると、この痛ましい避難はキャンプの住民の90%以上に影響を与えており、避難民は悲惨な人道的状況に耐えなければならない。

イスラエルがヨルダン川西岸北部のキャンプで攻撃を続けているのは、イスラエルが抵抗勢力の拠点を標的にし、治安管理を強化しているという公式声明に続くものだ。

しかし、パレスチナ人は、真の目的はパレスチナ人を強制的に避難させ、ヨルダン川西岸の併合を加速させることだと考えている。

厳しい冬、悲惨な状況

残忍なイスラエル軍の侵攻によって避難を余儀なくされて以来、サリムさんは6人の子供を含む家族を守るために奮闘してきた。他の何千人もの人々と同様に、彼らは極度の困難に直面している。

彼はパレスチナ・クロニクル紙に、避難民1万7000人のうち1万5000人が、地域を襲う厳しい寒波に耐え

ながら、暖房を含む基本的なサービスが著しく不足していると語った。

「キャンプに軍が駐留し、即時避難命令が出されたため、避難民は何も持たずに家を出た」と彼は語った。「彼らは最も基本的な必需品さえ持っていない。特に子供たちはそうだ」。

緊急委員会が結成され、援助を提供しているが、必要とする量は利用可能な資源をはるかに上回っている。3,300世帯以上が深刻な水、電気、暖房、毛布、食糧不足に苦しんでいる。

こうした不足に加え、ジェニン難民キャンプの避難民は爆撃や破壊が続く中、常に恐怖の中で暮らしている。

「爆発音が聞こえ、燃える家から煙が上がるのが見えるが、どの家が破壊されたのか分からない」とサリムさんは語った。「この不確実性で極度の不安に襲われている」

サリムさん自身の家も荒らされ、ドアが吹き飛ばされ、窓が割れ、隣の井戸が破壊された。これは、キャンプ内の何百もの家で起きたことと似ている。

繰り返される悲劇

トウルカーム難民キャンプは、3週間以上前にこの地域を襲撃し、住民の3分の2以上が避難を余儀なくされたイスラエル軍の次の標的となった。

キャンプの住人であるソンドス・アリさんは、イス

オリーブの会通信 第51号 (通巻57号)

ラエル軍が耐え難い状況を課し、1948年のナクバ後に家族が避難して以来初めて、住民の85%、約1万人が避難を余儀なくされた様子を語った。

イスラエル軍は同様のパターンに従い、抵抗戦士の搜索を口実に、道路やインフラを破壊し、水道や電気を遮断し、数十軒の家屋を破壊または焼き払った。

「侵略中に銃を突きつけられて強制的に避難させられた。これは私たちがこれまで目にしたことのないことだ」とアリさんは語った。「侵略が始まって以来、5人のパレスチナ人が殺害された。彼らはイスラエル軍が課した厳しい規制の下、公の葬儀や集会もなく埋葬された。」

襲撃中、家族全員が自宅に監禁され、数日間、自宅は軍の拠点と化した。通信や基本的なサービスが遮断され、住民は恐ろしい状況に耐えなければならなかった。

イスラエル軍は最近、トゥルカームに隣接するヌールシャムス難民キャンプを含むように攻撃を拡大すると発表した。襲撃から数時間後、イスラエル軍は妊娠中の女性と胎児を殺害し、逃げようとした夫を重傷を負わせた。

別の致命的な攻撃では、ヌールシャムス難民キャンプの自宅のドアを爆破した後、兵士が少女を射殺し、父親を負傷させた。一方、トゥルカームの主要政府病院の包囲は2週間以上続いている。

包囲強化

トゥバス市にあるアル・ファアラ難民キャンプも10日以上にわたってイスラエル軍の大規模な侵攻を受けており、兵士らは家屋を襲撃し、財産を破壊し、大量逮捕を行い、現地で尋問を行っている。

キャンプの活動家オマール・マンスール氏は、少なくとも30%の住民がイスラエルの脅迫により強制的に立ち退きを余儀なくされたと語った。

「彼らは銃を突きつけられて追い出された。意図的に脅迫されたのだ」と彼は語った。

「キャンプは完全に包囲されている。兵士たちは援助、医療関係者、民間防衛チーム、さらにはジャーナリストの立ち入りさえも阻止している」とマンスールは付け加えた。「10日前に少女が亡くなり、遺体はまだ冷蔵されている。軍が彼女の埋葬を妨害しているからだ」

水道管の破壊、深刻な食糧と粉ミルクの不足、そして続く軍の襲撃により、残された人々の生活は耐え難いものとなっている。

イスラエルの占領軍は、家屋や車両を破壊し、数十人を逮捕し、凍てつく寒さの中で屈辱的な野外尋問を続けている。

イスラエルが攻撃の正当性を表明しているにもかかわらず、

パレスチナ人はイスラエルがガザで見られた大量虐殺の戦術を模倣していると非難している。つまり、避難、テロ、そして必須サービスの組織的遮断という同じ方法を使用しているのだ。

(パレスチナ・クロニクル)

ファイハ・シャラッシュはラマラを拠点とするパレスチナ人ジャーナリスト。彼女は2008年にビルゼイト大学を卒業し、それ以来記者およびアナウンサーとして働いている。彼女の記事はいくつかのオンライン出版物に掲載されている。彼女はこの記事のパレスチナ・クロニクルに寄稿した。

アハリー病院に支援を アハリー・アラフ病院を支援する会

東京都新宿区西早稲田 2-3-18

キリスト教事業所連帯合同労働組合気付

問合せ Fax: 03-3207-1273 (担当: 星山・新名)

メール ayyam_ahli@yahoo.co.jp

(振込先)

口座名義: アハリー・アラフ病院を支援する会

郵便振替口座: 00150-7-601525

UAWC 寄付するには

IBAN (国際口座番号) ES41 1550 0001 2800 0113 1721

BIC/SWIFT: ETICES21XXX

受益者: Bizilur, Asociación Para la Cooperación y el Desarrollo de los Pueblos (Bizilur、人民協力開発協会)

住所: C/ Cardenal Gardoki 9 - 5o Dcha

都市: ビルバオ

重要: 寄付には税制上の優遇措置があります。

Bizilur Asociación Para La Cooperación Y Desarrollo De Los Pueblos への寄付は、個人所得税 (IRPF) の税控除の対象となります。ご質問がございましたら、(+34) 94 433 88 17 または Palestina@bizilur.org までご連絡ください。





交渉第2段階におけるハマスの選択肢

イスラエル人捕虜の6番目のグループがガザ地区南部のハーンユニスから解放された。(写真：アル・カッサム軍事メディア経由)

2025年2月15日の記事、解説

ハッサン・ナファー著

カイロ大学のハッサン・ナファー政治学教授は、トランプ大統領がネタニヤフ首相に合意の第2段階を進め、争点となっている問題についての交渉を延期するよう説得しようとする可能性がある」と主張している。

ガザでの停戦合意は、2025年1月19日(日)に発効した。42日間の第1段階の後に開始される第2段階には、まだ解決されていない多くの重要な問題が含まれているため、合意ではハマスとイスラエルの双方が16日目の2025年2月4日までに間接交渉に入ることが明示的に求められている。また、米国、エジプト、カタールには停戦の継続とその成功裏の実施を確保する義務がある。

しかし、イスラエルは合意されたスケジュールを厳密に遵守しなかった。決定を下す権限がないまま、代表団をカタールに派遣するのが2月9日まで遅れたことからそれがわかる。これは驚くことではない。イスラエル政府の大多数が停戦を承認したにもかかわらず、合意は政府内のより過激な派閥からの強い反対に直面していたからだ。この結果、国家安全保障大臣でユダヤの力党の党首であるイタマール・ベン・グヴィルが辞任し、財務大臣で宗教シオニズム党の党首であるベザレル・スモトリッチは、イスラエル政府が第2段階を進め、第1段階の終了時に戦闘再開を拒否した場合は撤退すると脅した。

ネタニヤフ自身も、この合意は必要な場合に戦闘再開を妨げるものではないと何度も公に述べている。

ネタニヤフが最近のワシントン訪問後に新たな力強さを感じたことは明らかである。トランプはワシントンで、パレスチナ人をガザから移住させようとしていると述べ、米国はガザを占領して中東の「リビエラ」に変える準備ができていることを強調した。トランプは、エジプトとヨルダンに約200万人のパレスチナ人を受け入れるよう求めるまでになった。

さらに懸念されるのは、米国の中東特使スティーブ・ウィトコフ氏が、米国は「合意の第3段階に関する交渉

を再開する」つもりであると述べ、トランプ政権は、合意の成立に最も決定的な役割を果たしたとトランプ氏が繰り返し自慢しているにもかかわらず、現在の合意に規定されている内容に縛られることはないと考えていることを示したのだ。

このような状況で、ハマスは、3月初旬に終了する第1段階の終わりにイスラエルが戦争を再開する可能性を含め、あらゆる可能性に備えなければならない。したがって、第2段階の交渉でハマスが利用できる選択肢について疑問を投げかけるのは当然だ。

実際には、ハマスはイスラエルよりも交渉の立場が有利である。その理由は以下のとおりである。

第一に、停戦合意の第1段階の結果は、特にそのすべての要件が完全に履行された場合、最終的にはイスラエルではなくパレスチナ側に利益をもたらす。

この段階の終わりまでにイスラエルは33人の囚人を取り戻すことができ、疲弊した軍は非武装の国民に対する長期にわたる恥ずべき戦争の後に一息つく機会を得ることになるが、パレスチナ人は大量虐殺に直面しているにもかかわらず、次のようなより大きな利益を得ることになるだろう。

終身刑または長期刑を宣告された数十人を含む、数百人のパレスチナ人囚人の釈放。

50万人以上のパレスチナ人が、耐えてきた甚大な破壊と直面している困難な生活条件にもかかわらず、ガザ北部に帰還すること。これは、移住と定住を主張する人々にとって、それ自体が圧倒的な敗北を意味する。

パレスチナ人がほぼ15か月間耐えてきた、大量虐殺のレベルに達した甚大な人道的苦しみのある程度緩和する、いくらかの援助の導入。

国際議題にパレスチナ問題が最終的に盛り込まれること。

第二に、イスラエルは明らかにこの脅威をハマスへの圧力手段として利用しているにもかかわらず、内外のさまざまな理由から、戦闘再開の決定はイスラエルにとって容易でも賢明でもないだろう。

国内的には、ガザから残りの囚人が解放されるまでに

戦闘再開への反対が強まることが予想され、イスラエル国民は交渉を妨害した主な責任はネタニヤフにあると確信を深めるだろう。彼の決定は個人的な利益にはなるかもしれないが、イスラエルの利益にはならないだろう。特に、残りの囚人全員がほぼ確実に死亡することになるためだ。

国外的には、戦闘再開はさまざまな国、特に大学や若者の間で抗議活動を再燃させ、一部の西側諸国を含む多くの国がイスラエルに対して懲罰的措置を取るよう促す可能性がある。米国防権でさえ、トランプ氏がイスラエルとネタニヤフ氏個人に同情的であるように見えるにもかかわらず、中東で戦争が再び勃発するのを待ち焦がれる必要はない。

3つ目：戦闘再開には大きなリスクが伴い、その結果は不確実である。イスラエルの軍事機構が力づくで捕虜を奪還したり、ハマスを粉砕してガザでの支配を打倒したりできたなら、15か月近く続いた長期の戦闘中にそれらの目標のいくつかを達成できたかもしれない。特に、イスラエルはその間、軍事、経済、政治のレベルで無制限の米国支援を受けていたからだ。

これらすべての理由から、トランプがネタニヤフに、合意の第2段階を進め、特に恒久停戦後にガザを監督する政党に関連する論争的となる問題に関する交渉を延期することが、彼個人とイスラエルにとって最善の利益であると説得しようとする可能性は低いとは言えない。これが、ウィトコフがトランプ政権がこの段階、特に復興問題に関する現在の合意の条項に同意しておらず、この問題に関する交渉再開を推進すると公言した理由である。

合意の原文では、この段階には「身元確認後の双方の遺体と遺骨の交換、エジプト、カタール、米国などの国や組織の監督下で3年から5年続く再建と補償計画の開始、すべての検問所の開放、人や物の自由な移動の許可」が含まれるとされている。トランプ氏の行動と発言は、ガザの再建計画を、パレスチナ人を追放しガザを中東のリビエラに変えるという同氏のビジョンを軸とした地域紛争の最終的な解決に向けたより広範な取り組みに結び付けようとしていることを示唆している。

トランプ氏のビジョンは、2つの重要な問題に関するネタニヤフ氏の見解と一致している。1つ目は、恒久的な停戦後にハマスがガザを支配・管理するのを防ぐこと、2つ目は、2002年のアラブ首脳会議で概説されたように、1967年に占領された土地に独立したパレスチナ国家が樹立されるのを防ぐことである。これが、トランプ氏が、現在の合意で規定されているように、エジプト、カタール、

その他の国際機関を関与させるのではなく、ガザの復興プロセスの管理において米国のみこだわりの理由である。

ガザの復興には10年から15年かかるため、トランプ氏は、2期目にアブラハム合意を拡大し、自身とネタニヤフ首相の目的に沿ってこの地域を再編し、最終的にパレスチナ問題を解決する基盤を築くのに十分な時間があると考えている。したがって、第2段階に関する交渉は、パレスチナ問題の将来にとって決定的なものとなるだろう。

ハマスは、第2段階の交渉に入る前に、イスラエルが第1段階のすべての義務、特に人道的プロトコルに関連する義務を順守することを条件とすることができる。これには、毎日少なくとも600台の援助トラックの入国（そのうち300台はガザ北部へ）、キャラバン6万台とテント20万張、民間防衛装備とインフラ修理資材の入国が含まれる。

ハマスはまた、合意された第2段階の実施を開始する前に、国連安全保障理事会が恒久的な停戦を保証することを主張することもできる。ガザでの甚大な破壊と、イスラエルの戦争機構に対する伝説的な抵抗の間にパレスチナ人が払った途方もない犠牲の後では、ハマスは失うものは何もない。イスラエルが武力と大量虐殺戦術で達成できなかったことを交渉で達成しないようにすることもハマスの義務である。

(アル・マヤディーナ・アラビア語ウェブサイト - パレスチナ・クロニクルによる翻訳と準備)

パレスチナ日誌

2025年1月

1月1日戦争の453日：

- ・イスラエル、ガザでハマスに代わる政権樹立を協議
- ・占領軍、2024年に198人の殉教者の遺体を収容
- ・2024年の統計 イスラエル人の出国者数が増加
- ・2025年初頭、ガザから西ネゲブの入植地に向けて2発のロケット弾が発射された。
- ・占領軍によるアル・ブレイジ・キャンプとジャバリア町への空爆の結果、10人の殉教者（そのほとんどが子ども）。
- ・イエメン防空部隊が米軍機を撃墜
- ・イスラエル、撤退を延期... レバノン南部で砲撃
- ・保健省 新たな虐殺により12人が殉教、侵略による死者は4万5千人を超える
- ・数十人の入植者がアル・アクサを襲撃し、その段階でハヌカ・メノラーに火を灯す
- ・テルアビブで拘束者の返還を求めるデモ
- ・自治政府が放送停止を決定、ヨルダン川西岸地区でのアルジャジーラの全事業を凍結

・アルジャジーラ、パレスチナ自治政府によるヨルダン川西岸地区での放送停止を非難

1月2日

- ・数十人の殉教者と、ガザの警察署長と助手の暗殺
- ・イスラエル軍無人偵察機、ダラア地方の武器庫を狙う
- ・イスラエル、レバノン南部のミサイルシステムを破壊
- ・保健省 新たな虐殺により28人の命が奪われる
- ・イスラエルがダマスカス地方を爆撃、アル・マンタラ・ダム占領
- ・エルドアンへのメッセージ：米国はシリア北部に新基地を建設中
- ・ガザ 占領軍は34の襲撃と犯罪を実行し、71人の殉教者

1月3日 455日間の戦争

- ・囚人クラブ アブ・サフィエ博士の運命が危うくなる
- ・イエメンのミサイルでイスラエル人12人が負傷
- ・ガザ地区における：血塗られた一日に数十人の殉教者
- ・イスラエル軍 イエメンから発射された無人機を迎撃した
- ・安保理、本日緊急会合を開催イスラエルのガザ病院攻撃について
- ・イスラエル・チャンネル i24：スデ・テイマン刑務所にカマル・アドワン病院長
- ・本日未明から続く占領軍のガザ地区空襲で20人が殉教
- ・占領軍によるガザのアル・シファ病院入り口爆撃で5人の殉教者
- ・本日2度目のガザから周辺入植地に向けて発射されたロケット弾
- ・アル・カッサムとアル・ナセル旅団が占領軍ヘリに対空ミサイルを発射
- ・フーシ派 我々はヤッファの2つの標的に対して2回の軍事作戦
- ・占領軍、ガザ地区北部のアル・アウダ病院に避難命令
- ・イスラエル軍によるガザ市空襲で子ども4人を含む7人が殉職

1月4日パレスチナ戦争 456日

- ・レジスタンスがガザ地区北部のイスラエル軍戦車4両を標的に
- ・アメリカはイスラエルに80億ドル相当の武器を売却する意向
- ・ガザで1日に59人、開戦以来45,717人の殉教者
- ・数十人のイスラエル人が囚人交換を要求するデモを行う
- ・イスラエル占領軍がガザ北部の地区全体の破壊を発表
- ・ジャバリア・キャンプの東で、イスラエル兵が避難した後、プービートラップの仕掛けられた家が爆破された。
- ・ガザ地区からベイト・ハヌーン（エレズ）交差点周辺にロケット弾が落下した。
- ・イスラエル軍、レバノン南部の5地域に侵入
- ・バイデン政権、イスラエル支援のため80億ドルの武器取引を承認
- ・ガザから9日間で20発のロケット弾が発射された。
- ・イスラエルのデモ隊がネタニヤフ首相を攻撃、戦争終結と捕虜の返還を要求
- ・ガザにあるインドネシアの病院が閉鎖

1月5日戦争の457日：

- ・数十人の殉教者とガザ市での砲撃の激化
- ・イスラエル軍 イエメンから発射されたミサイルを迎撃
- ・エルサレム：2023年10月以来、占領軍の銃弾により82人が殉教、296人が負傷
- ・イスラエル ブラジルで指名手配中の兵士、テルアビブへ向かう
- ・ガザで1日に88人の殉教者、開戦以来45,805人
- ・占領軍はガザで815のモスクを完全に、151のモスクを部分的に破壊した。
- ・2024年、占領軍と入植者による攻撃は1万6千件以上
- ・アル＝カッサム、イスラエル歩兵部隊に対する旅団との共同作戦実施

1月6日パレスチナ戦争 458日

- ・休戦協定破棄...イスラエルはレバノン南部の占領を強化し、撤退を拒否
- ・アル＝カッサム、イスラエル歩兵部隊に対する旅団との共同作戦実施・ハマスがイスラエル人捕虜のリストを提示、ネタニヤフ首相は否定 ドーハで集中調停中
- ・ガザ地区で乳児が風邪で死亡、死者8人に
- ・カルキリヤ近郊で銃撃攻撃、入植者3人が死亡、数人が重傷

- ・ガザでは1日に48人が殉教し、開戦以来45,854人が殉教した。
- ・ハイファのモールで刺傷事件、女性が負傷

1月7日 459日間の戦争：

- ・入植者たち、ヨルダン川西岸に3つの入植地を新たに建設するよう要求
- ・フーシ 我々はアシュケロンとテルアビブで軍事作戦を実施した
- ・数十人の殉教者とテントや家屋への爆撃
- ・入植者家族への補償のため - イスラエルは整理資金から2000万シケルの没収を決定
- ・占領警察、アル・アラキブを234回目の取り壊し
- ・囚人クラブ：54人の囚人が殉教、うち35人がガザ出身

1月8日 460日間の戦争：

- ・カン・ユニス、アッザ、中東で数十人の殉教者
- ・燃料危機がナセル病院を直撃、多くの診療科で業務停止
- ・保健省：ガザで51人が殉教、死者数は4万5千人以上に
- ・衝突 破壊と破壊工作 - 占領軍がトゥルカラム市を襲撃

1月9日パレスチナ戦争 461日

- ・ユニセフ 2025年第1週、ガザで74人の子どもが死亡
- ・ガザで1日に70人の殉教者、開戦以来46,006人
- ・40発のミサイルと320機の無人機 イエメンの抵抗勢力はイスラエルの奥深くを攻撃し、その計算を混乱させる
- ・囚人を支持し、アブ・サフィア医師と医療スタッフの釈放を要求するヘブロンでの大集会
- ・イスラエル軍、イエメンから発射された2機目の無人機を迎撃
- ・米下院、国際刑事裁判所に対する制裁を承認
- ・占領軍はデイル・イスティヤの町を襲撃し、数十人の市民を拘束、虐待。

1月10日戦争から 462日

- ・シン・ベト長官、ヨルダン川西岸での大規模軍事作戦を要請
- ・イスラエル 東から来た3機のドローンを迎撃した
- ・数十人の殉教者と病院の燃料危機は続く
- ・カン・ユニスとラファで殉教者と負傷者
- ・イスラエル兵、ガザでの戦争犯罪でスウェーデンで訴追される
- ・ガザ地区でのイスラエルによる爆撃と標的の結果、ジャーナリストを含む殉教者が出た。
- ・「イスラム協力」、占領軍による同地域の地図公開とヨルダン川西岸地区併合への扇動を非難

1月11日パレスチナ戦争 463日

- ・国連：占領はガザ北部への重要な援助を制限し続けている
- ・占領軍によるガザ西部のアパート爆撃で3人が殉職10人が負傷
- ・イスラエル軍、ガザ南部から発射されたロケット弾を迎撃した
- ・ガザ... 新たな5件の虐殺により、48時間で32人が殉教した
- ・ファタハ ガザを破壊したハマスがヨルダン川西岸で冒険を繰り返すことは許さない
- ・占領軍によるガザ地区中心部各地への空爆で、9人の殉教者と多数の負傷者が出た。
- ・イスラエルによる暴力の継続... レバノン南部クーニンの町への襲撃で2人が負傷
- ・イスラエル人囚人の家族がテルアビブで2つの抗議行動を実施
- ・ベイト・ハヌーンで爆弾爆発、兵士4人死亡、6人負傷

1月12日パレスチナ戦争 464日

- ・フーシ派、紅海での米空母標的を発表
- ・占領軍によるガザ地区各地への空爆の結果、救急隊員を含む3人の殉職者が出た。
- ・占領軍は市民にヌセイラットの地域から避難するよう要求
- ・イスラエル軍幹部、ベイト・ハヌーンに常設の「治安本部」設置を計画
- ・ガザで1日に28人の殉教者と89人の負傷者
- ・ガザでの地上作戦開始以来、400人のイスラエル兵が死亡
- ・5000人の殉教者と行方不明者 - ガザ地区北部での地上作戦から100日
- ・スモトリッチ、整理債務からイスラエルの電気料金を支払う
- ・入植者への弾薬割り当てを2倍にするイスラエルの決定

オリーブの会通信 第51号(通巻57号)

- ・エルサレム人18家族につきまとう追放と移住の悪夢
- ・カット：ヨルダン川西岸をガザにすることは許さない
- ・占領軍はデイル・イスティヤの町を襲撃し、市民50人を逮捕した。
- ・イスラエルによるレバノン南部への空爆
- ・サルフィット ハリスで市民100人が襲撃・逮捕される

1月13日戦争の465日

- ・数十人の殉教者と自治体サービス完全停止の警告
- ・イスラエル空軍、イエメンから発射された無人機を撃墜
- ・イスラエル、6週間で2,377ユニットの入植を承認
- ・占領軍は2日連続でレバノン南部の家屋を爆破し続けている。
- ・ガザで1日に19人の殉教者、開戦以来46,584人
- ・ガザ北部のビル爆発で兵士5人死亡、10人負傷
- ・この1週間で1,100台の援助トラックがガザに入り、配給された。
- ・アル＝フーシ：1カ月足らずで米空母トルーマンを5回攻撃
- ・アル・カッサムが複合作戦を発表、ラファで兵士25人を殺傷

1月14日戦争の466日

- ・イスラエル軍、イエメンから発射されたミサイルの迎撃を発表
- ・占領軍 ベイト・ハマーンの戦闘で将校と兵士4人が死亡、8人が負傷
- ・フーシ派、ヤッファでイスラエルの重要目標に対する2つの軍事作戦・イエメンのミサイル - イスラエル中部でサイレンが鳴り響く
- ・フーシ派 弾道ミサイルでヤッファ地区を狙った
- ・月曜未明からガザで70人の殉教者
- ・侵略開始以来、12,329人の学生が殉教し、574の学校と大学が爆破された。
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民35人を逮捕
- ・レバノンにおけるイスラエルの新たな停戦違反16件
- ・エジプト、ガザ再建の国際会議を主催する用意があると発表
- ・イスラム聖戦の代表団がドーハに到着、ガザ停戦の詳細について協議へ
- ・プリンケン 自治政府はガザを統治しなければならないが、包括的な改革を行った後でなければならない。
- ・占領軍によるジェニンキャンプ空爆で6人の殉教者と数人の負傷者

1月15日戦争の467日

- ・合意の最新動向 - イスラエル交渉チーム：合意に近づいているが、時期の決定は難しい
- ・ICC 検察官、逮捕状に対するイスラエルの上訴に反対
- ・占領軍がデイル・アル・バラとラファの2つの家屋を標的とし、18人が殉教した。
- ・数十人の殉教者とガザの避難民テントへの砲撃
- ・カパティヤで爆弾爆発、イスラエル兵3人が負傷
- ・刑務所サービス、囚人の釈放を記録するカメラの装備を決定
- ・イスラエル ガザの囚人3,464人が拘置所に収容されている
- ・ムスタファ パレスチナ自治政府以外のいかなる権力もガザ地区を支配すべきではない

- ・停戦発表が待ち望まれるガザ地区での殉教者と負傷者
- ・更新 6人の殉教者 - 占領軍がジェニンキャンプの2軒の家屋を爆撃
- ・カタール首相、ガザ停戦合意を発表

1月16日戦争の468日

- ・ラジャブ 占領軍は、治安と秩序を押し付けようとする治安当局の努力を妨害する努力を続けている。
- ・数十人の殉教者とガザ市への絶え間ない爆撃
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民22人を逮捕
- ・停戦発表以来 - ガザで71人の殉教者と200人以上の負傷者
- ・停戦発表後の数時間で80人の殉教者
- ・占領軍 ヨルダン川西岸地区でパレスチナ人10人を殺害、50人を逮捕

1月17日戦争469日

- ・停戦開始前に数十人の殉教者
- ・アブ・アーメド・フアド元人民戦線副書記長の死去
- ・入植者たちはマサファー・ヤッタのテル・マイン遺跡を襲撃し、占領軍はベイト・アワを襲撃した。
- ・6万人の礼拝者がアル・アクサで金曜礼拝を行う

- ・入植者、サルフィット東部ヤスフでオリーブの木100本を伐採
- ・ガザの保健省： 占領軍による4つの虐殺で、24時間以内に88人の殉教者が出た
- ・イスラエル、囚人取引を閣議決定、30分後に政府内で討議開始
- ・フーシ 我々はテルアビブ、エイラト、アシュケロン地域のイスラエルの重要な標的を攻撃した。

1月18日戦争の470日

- ・ネタニヤフ首相：「もし合意に違反すれば、トランプは戦争に戻ることを支持する
- ・停戦実施前に数十人の殉教者と襲撃事件
- ・占領政府が停戦協定を承認
- ・イエメン、テルアビブおよびヨルダン川西岸入植地にミサイル数発を発射
- ・イスラエル軍 イエメンからのミサイルが領空に侵入する前に迎撃した
- ・大統領は、ガザ地区における入境所の管理を確認した。
- ・テルアビブでの刺傷事件でイスラエル人が負傷、犯人は死亡
- ・フーシ 我々はヤッファのイスラエル国防省を“Dhu al-Fiqar”ミサイルで狙った。
- ・ドーハで派閥会合 ハマス われわれの手はいつでもどこでも団結のために伸ばされている

1月19日

- ・停戦前... イスラエルによるガザ北部への集中攻撃
- ・停戦協定発効
- ・援助トラック、ガザ地区への進入を開始
- ・合意にもかかわらず、占領軍はガザへの空爆を続けている。
- ・ベン・グヴィール氏ら同党閣僚が辞表を提出
- ・占領軍に停戦命令 - ネタニヤフ首相：協定発効 11:15
- ・赤新月社 占領軍、停戦にもかかわらず救急隊員を標的に
- ・交換取引で釈放される予定のエルサレム人囚人8人の家を襲撃
- ・ガザの保健省： 24時間で14人の殉教者、開戦以来46,913人
- ・占領軍情報部がエルサレム人捕虜の家族を召喚
- ・イスラエル軍、イスラエル人女性捕虜を収容
- ・特派員 ジェニンキャンプで治安部隊と武装集団の衝突が再燃

1月20日停戦2日目

- ・ヨルダン川西岸地区で入植者たちが市民の車を襲撃し、いくつかの道路を封鎖
- ・471日ぶりに虐殺のない朝を迎える
- ・スモトリッチの脅し ガザとの合意の第2段階が実施されれば、私は政府を崩壊させるだろう
- ・ガザの保健省： 過去24時間に122人の殉教者が病院に到着
- ・グテーレス：ヨルダン川西岸地区の編入は国際法の明白な違反となる

1月21日停戦3日目

- ・占領軍はラファ市の中心部で子供を処刑し、もう1人に怪我を負わせた。
- ・入植者たちがヨルダン川西岸の町や村を襲撃
- ・カルキリヤ東部で入植者が車両を燃やし民家を襲撃
- ・占領軍、ガザ地区北部への避難民の帰還時期について語る
- ・民間防衛：1日で66体の遺体を収容
- ・ガザ戦争：全壊、10,100人の虐殺、損失は380億ドルを超える
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区の市民20人を逮捕
- ・パレスチナ治安要員を含む殉教者と負傷者..... 占領軍がジェニンで軍事作戦を開始
- ・ハマス、「総動員」を呼びかけ、ジェニンでの占領軍の広範な侵略に立ち向かう

1月22日停戦4日目

- ・イスラエル参謀総長が辞任
- ・ラファ西部で市民が占領軍に殺害される
- ・占領軍のジェニン侵攻で殉教者8人、負傷者35人
- ・ガザの保健省： この24時間で72人の殉教者と56人の負傷者が病院に到着した。

- ・クネセト、10月7日のテロを否定した者に5年の実刑判決を科す法律を可決
- ・レポート イスラエルとエジプト、パレスチナ自治政府がラファ交差点を管理することで合意
- ・ネタニヤフ首相、パレスチナ自治政府へのラファ通過の譲渡合意を否定
- ・占領軍はサルフィット県内の村や町に厳しい閉鎖を課している。
- ・鉄の占領壁がジェニンを包囲：大規模な破壊と数千人の移動
- ・占領軍、ヘブロン西部イドナの町で8軒の家屋取り壊しを通告
- ・ガザ 殉教者1名、負傷者数名、停戦4日目の殉教者回復状況

1月23日停戦5日目

- ・グテーレス：ガザへの緊急人道援助を拡大するために取り組んでいる
- ・トランプ大統領、フーシ派を「外国テロ組織」に再指定
- ・アル=カッサム旅団、ジェニンの占領軍ブルドーザーで爆発物を爆発させたと発表
- ・戦争中、占領軍によるガザ地区の病院への520回の攻撃
- ・占領軍がジェニンキャンプで多数の市民宅を焼却
- ・ガザ：占領軍の攻撃により負傷した市民306人、殉教者120人の遺体を収容
- ・イスラエル政府高官 30人の女性捕虜が帰還すれば、ガザでの戦争に戻るかもしれない

1月24日停戦6日目

- ・シン・ベット 今度はヨルダン川西岸の番だ。
- ・占領軍がジェニンキャンプに夜間外出禁止令を発令
- ・国連安全保障理事会、ガザ地区の子どもの状況について討議
- ・4人のイスラエル人女性捕虜の名前が引き渡された。
- ・占領軍は4日目もジェニンとそのキャンプへの攻撃を継続
- ・占領軍はジェニンの西にあるシラト・アル・ハリチャとアル・ヤムーン町の入り口をブルドーザーで破壊した。
- ・ガンツ、イスラエル軍にレバノンから撤退しないよう要求
- ・ネタニヤフ首相 60日間の停戦終了後もレバノンから撤退しない
- ・停戦にもかかわらずイスラエルによるレバノン南部への攻撃続く
- ・ワシントンがイスラエル入植者と団体への制裁を解除
- ・占領軍は6日目もエリコを閉鎖し続け、入植者たちは“カランチュール山”を襲撃した。

1月25日停戦7日目

- ・ジェニンの南、カバティヤで占領軍が車両を爆撃し、2人の殉教者が出た。
- ・イスラエル、UNRWAに1月30日までにエルサレムからの撤退を要求
- ・4人の女性囚人の解放、200人のパレスチナ人囚人の解放、イ・3,000世帯が避難 - ジェニンで占領軍の侵攻が5日目も続く
- ・レバノン軍、南部への展開準備を確認 イスラエルの先延ばしを非難
- ・ハマス 女性囚人を引き渡すシーンは、占領政府に深い戦略的メッセージを送っている
- ・占領軍はラマツラ県内の町や村を襲撃し、囚人の家を襲撃した。
- ・イスラエル人女性囚人、カッサム戦士への感謝のメッセージでガザに別れを告げる
- ・ジェニンでの作戦中にイスラエル兵3人が負傷、1人は重傷
- ・レバノン南部で爆弾が爆発し、イスラエル軍将校と兵士が負傷した。

1月26日停戦8日目

- ・占領軍はジェニンへの侵略を続けている
- ・占領軍はヘブロン市内で、解放された囚人ムハンマド・アル・ラジャビの家から10人の若者を逮捕した。
- ・60日間の期限が切れたにもかかわらず、イスラエルはレバノン南部から軍を撤退させていない。
- ・トランプ エジプトとヨルダンはガザ住民を受け入れるべきだ
- ・バルグーティ：ガザ住民を移送するというトランプの発言は完全に否定される
- ・アメリカ、世界各国への対外援助を凍結
- ・イスラエル軍 「鉄の壁」はジェニンの治安の現実を変えるための軍事作戦である

- ・「ファタハ中央委員会」、同胞を土地から追い出そうとする試みの絶対的拒否を確認

1月27日

- ・エジプトは強制移住を拒否
- ・占領軍 月曜朝に避難民の帰還を許可する
- ・ホワイトハウス レバノンとイスラエルの「合意」を2月18日まで延長
- ・イスラエル軍、ネツァリム軸から撤退
- ・アラブ連盟 パレスチナ人の土地を奪う試みは拒否される
- ・占領軍はベイト・ウンマルの町から20人以上の市民を逮捕した。
- ・ハマス ガザ地区北部への避難民の帰還は、占領軍の敗北であり、われわれの国民の勝利だ
- ・サウジパレスチナ問題の解決なくしてイスラエルとの関係正常化はない
- ・逮捕キャンペーン... 占領軍はジェニンキャンプの家屋を破壊し焼き払い続けている
- ・占領軍は、ガザに送還された囚人の釈放を祝福したナブルスのディワンを爆破すると脅迫した。
- ・ヨルダン、トランプ案を断固拒否
- ・9人の遺体を収容 ガザ戦争の殉教者47,317人に達する
- ・ヒズボラ書記長 ガザのレジスタンスを壊滅させるイスラエルの計画は失敗した
- ・ガザ政府 北部の避難民を保護するために12万張りのテントが必要だ

1月28日

- ・トランプ シシはヨルダン国王と同様にガザのパレスチナ人を迎える・ガザ地区のラシッド通りで腐乱死体10体を発見
- ・ガザ北部への帰還民の90%、住まいがない
- ・ヨルダン川西岸地区への攻撃の激化と、トゥルカルムとジェニンのキャンプからの家族の強制退去
- ・占領軍、ヨルダン川西岸地区から少なくとも25人の市民を逮捕
- ・イスラエル当局、アル・アラキブを235回目の取り壊し
- ・占領軍がウナム・アル=ファフムを襲撃、シェイク・ラエド・サラールを逮捕
- ・パレスチナ公式代表団がシリア新政権指導者と会談

1月29日停戦11日目

- ・入植者たちがヨルダン渓谷北部のバルダラ西部に入植地を拡大
- ・避難民の帰還が続き、さらに多くの殉教者が救出される
- ・月曜日以降、376,000人以上の避難民がガザ北部に戻っている。
- ・ガザの囚人2人が占領軍刑務所で殉教した
- ・ガザの保健省：過去24時間で63人の殉教者と8人の負傷者
- ・カツツ：“テロ”が再発しないよう、軍はジェニンに留まるだろう

1月30日停戦12日目

- ・10人の殉教者 - 占領軍がタムーンの町を爆撃
- ・アル=シシ パレスチナ国家の樹立は、この地域の安定の最も重要な保証である
- ・50万人以上の避難民が帰還 イスラエルの侵害は続く
- ・10日目 - 占領軍はジェニンとそのキャンプへの侵略を続ける
- ・シンワルの家の前で - アル・カッサムがイスラエル人2人を含む8人の拘束者を引き渡す
- ・国連パレスチナ難民救済事業 (UNRWA) の職員がエルサレムを去る
- ・囚人事務所 パレスチナ人110人の解放はレジスタンスの勝利である
- ・占領軍、ジェニンで兵士1人殺害、5人負傷と発表

1月31日停戦13日目

- ・トランプ ヨルダンとエジプトはガザ住民を受け入れ、われわれの要求に従うだろう
- ・国内避難民の帰還は続き、イスラエル軍の暴力は続く
- ・イスラエル軍、レバノン北部ベカー-渓谷のヒズボラ標的への空襲を発表
- ・占領軍は11日連続でジェニンとそのキャンプへの攻撃を続けている。
- ・占領軍は5日連続でトゥルカルム市とキャンプへの攻撃を続けている。
- ・イスラエル軍、ガザ南部のラファ交差点から撤退
- ・占領軍がジェニン市に追加増援部隊を送る



Tears of Gaza

星が輝くことのない夕暮れの中

心の痛みにも包まれた町があり、過去が心から離れない

子供たちの笑い声は、かつて知っていた日々の思い出に過ぎない

川が流れていた場所には今、涙が並んでいる

ガザの涙が雨のように降る

夢が打ち砕かれ、空も痛みを隠せない土地で

ガザの涙が夜通しこだまする

光を求めるすべての子供たちの目に

石のように冷たい壁も、過去の人生の悲しみを隠せない

レンガ一つ一つ、隅々まで、終わりのない戦争の物語を語っている

運命に失われた息子たちの写真にしがみつくと母親たち

手遅れになる前に慈悲の夜明けを祈る

ガザの涙が雨のように降る

夢が打ち砕かれ、空も痛みを隠せない土地で痛みは隠せない

ガザの涙が夜通しこだまする

光を求めて手を伸ばすすべての子供たちの目に

ああ、世界は見守っているが、沈黙は変わらない

ガザの心には、消えることのない炎がある

愛が傷を癒し、より明るい日をもたらすことができれば

ガザの涙がゆっくりと消えていくのを見ることが出来るだろう

風のささやきの中に、悲しげな叫びが聞こえる

暗い空の下で、希望と自由の歌を歌う

平和が支配する時を夢見続ける魂のために

ガザの心で、再び愛を見つけられますように

ガザの涙が雨のように降る

夢が破れ、空が痛みを隠せない土地で

ガザの涙が夜通しこだまする

光を求めて手を伸ばすすべての子供たちの目に

ガザの涙がいつか消えますようにやめなさい

優しい慈悲の腕の中で、私たちは平和への道を見つけられますように

YOUTUBEで Tears of Gaza で検索すれば聞くことが出来ます

おいしいパレスチナ

ルビエ・ビ・ゼイト (インゲンとトマト)



ルビエ・ビ・ツァイトは、伝統的なビーガンのパレスチナ料理で、「油漬けインゲン」という意味です。ヘルシーでおいしい料理で、通常はサイドディッシュまたはメインディッシュとして出されます。野菜料理が好きなら、このレシピはきっと気に入るでしょう。

レシピにはいくつかのシンプルな材料が含まれており、すぐに作れます。インゲンはオリーブオイルと玉ねぎで柔らかくなるまで煮ます。新鮮なトマトとスパイスを加えると、このレシピはさらにおいしい味になります。

ルビエ・ビ・ゼイトを調理して皿に盛り付けます

トマトが嫌いな人は、このレシピを卵で作ってください。母はこのレシピを作るときはいつも、玉ねぎと一緒に調理した後、豆を半分に分け、一部はトマトと一緒に調理し、一部は卵と一緒に調理します。卵は別のおいしい選択肢です。

ルビエとは？

「ルビエ」またはルビアはアラビア語でインゲン豆を意味し、初夏によく出回ります。この料理は、トマト、玉ねぎ、スパイスと一緒にオリーブオイルで調理したインゲン豆が特徴で、風味豊かでヘルシーな選択肢で、メインディッシュとしてよく出されます。

新鮮なインゲン豆

ロマノ豆、ランナー豆、フラットインゲン、フレンチインゲンなど、インゲン豆にはさまざまな種類がありますが、どれも食感が非常によく似ており、アラビア語でインゲン豆を意味するファソリアと呼ばれる別の人気のパレスチナのシチュー料理によく使用されます。しかし、ルビエは形や食感が異なり、茎はより細く、長く、調理後もわずかに歯ごたえのある食感を保ちます。

器具

この投稿にはアフィリエイトリンクが含まれている場合があります

鍋 - インゲン豆を調理します。

まな板 - 玉ねぎのみじん切りとインゲン豆を切るため。

材料

：インゲン豆、トマト、玉ねぎ、オリーブオイル、塩、オールスパイス。

スイートオニオンまたはホワイトオニオン - 細かく刻ん

で、この料理に風味を加えます。

エキストラバージンオリーブオイル - このレシピでは、良質のオリーブオイルをお勧めします。

フレッシュトマト - この料理には、新鮮なまたは完熟したトマトが最適です。缶詰のトマトを使用することもできますが、フレッシュトマトを使用すると、味が大きく異なります。

手順

オリーブオイルとみじん切りの玉ねぎを鍋に入れます

ステップ 1 | オリーブオイルを鍋に入れ、中火で熱します。みじん切りの玉ねぎを加えて炒めます。

ステップ 2 | 5～7分炒め続け、玉ねぎが黄金色になるまで炒めます。

まな板の上でルビエを刻む

ステップ 3 | インゲンを洗い、端を切り落とします。2インチに切ります。

鍋で生のルビエと玉ねぎを混ぜる

ステップ 4 | インゲンを鍋に加え、玉ねぎと混ぜ合わせます。

鍋で調理したルビエ

ステップ 5 | 1～2分間炒め、大きじ2～3杯の水を加え、蓋をして火を弱めます。くっつかないように、時々かき混ぜ、必要に応じて水を追加します。豆が柔らかくなるまで、10～15分ごとにかき混ぜながら調理します。

まな板の上でトマトを刻む

ステップ 6 | その間に、トマトの皮をむき、正方形くらいの大きさに切ります。

鍋に入れたルビエの上に刻んだトマトを注ぐ

ステップ 7 | 刻んだトマトをかき混ぜ、中火～強火で5分ほど煮て、トマトが崩れて汁が出るまで煮ます。

ステップ 8 | 鍋に蓋をして弱火で約15～20分、またはトマトと豆が完全に調理されるまで煮込みます。塩とオールスパイスを加え、よく混ぜます。

注；アラビア語でいんげんの事をルビエ、ファソリアと呼ぶが、ルビエはさや付いんげんのこと。



2月21日「イスラエルの放送は、カマルアドワン病院のフサム。アブサイフ医師の姿を報道した。160人以上の医療関係者が」拘束されている

今号の内容

停戦は継続するのか.....	1
民族浄化の比喩的「ピラ」.....	3
トランプのガザ追放計画は.....	4
イスラエルは捕虜となったイスラエル人を射殺.....	6
ヨルダン川西岸の民族浄化.....	7
交渉第二段階におけるハマスの選択肢.....	9
パレスチナ日誌.....	10
パレスチナの愛した歌.....	14
おいしいパレスチナー.....	15
トピック.....	16



2月16日に京大西部講堂でパレスチナ問題学習会



2月11日東エルサレムの書店主がパレスチナに関する書籍を販売したことで逮捕された



2月16日新宿西口



1月31日岐阜での抗議行動



2月15日ロンドンでトランプへの抗議



2月19日豊中駅での抗議行動